

始まりの店に行ってみる。

道産子のコンビニとして愛されるセイコーマート。50周年を迎えたセイコーマートの1号店は、何と北区にある北30条の〈セイコーマート はぎな店〉だ。当時オーナーだった萩中さんによると、1961年に食料品や日用品を扱う店を始め、1971年にコンビニへ転換。酒や野菜などさまざまなものを1か所でまとめて売っていて、店内を回り選んだ商品を自らレジに持って行くセルフ方式を導入した当時としては画期的な店だったそう。地域に根差し、地域に愛されたおかげでこれまで続けてこられたと話す萩中さん。〈セイコーマート はぎな店〉は開業当時と変わらぬ想いをもち、今もなお地域においしさや便利さを日々届けている。

セイコーマート はぎな店 | 北30条西8丁目 営業時間 7:00~23:00 Tel.(011)716-4991

21

Feeling like a small trip



開店当時の店舗

当時のオーナー 萩中 末雄さん

わきあいあい 篠路まちづくりテラス 和氣藍々

篠路4条9丁目 営業時間 11:00~17:00 月休 Tel.(011)788-3146



▲おうち食堂の皆さん



商店街の空き店舗を活用し、ひとり親家庭の子どもたちへの学習と食を支援したり、日替わりシェフによるランチの提供やまちの教室を行ったりする〈麻生キッチン りあん〉。藤女子大学(食物栄養学科 隈元ゼミ)の学生のアイデアを、認定NPO法人Kacotam、NPO法人ぱすとらら、あさぶ商店街が連携してかたちに。活動を広げ、現在はNPO法人麻生キッチンりあんとして地域とつながっている。そしてもう一つ、まちづくりの拠点となる地域の居場所をとワーカースコープの組合員が中心になり地域を巻き込んで生まれた〈篠路まちづくりテラス 和氣藍々(わきあいあい)〉。看板メニューの手打ちうどんにシフォンケーキ、地元の野菜や地域の方が作った雑貨も並ぶコミュニティカフェだ。市の障がい者協働事業所でもあり、誰もが活躍できる場になっている他、地域のボランティアがおうち食堂を不定期に開催している。ともに温かな食卓を囲むことを真ん中に据えた活動に、まちづくりの原点を感じる。



20

Feeling like a small trip

熱戦に胸躍る。

高校球児たちの熱い戦いが繰り広げられる硬式野球場〈麻生球場〉。かつて中島公園内にあった球場に代わる施設として開設されたグラウンドの下には、創成川水再生プラザ(下水処理場)がある。選手の安全と観客へのホスピタリティにもこだわった造りになっており、隣には庭球場も。選手や観客を迎える「球道食堂」は、高校時代主将・遊撃手として活躍した元球児が営んでいる。

麻生球場 | 麻生町7丁目 Tel.(011)736-1461



22

Feeling like a small trip

地域コミュニティ とつながる。



▲こども食堂の皆さん



麻生キッチン りあん

北39条西5丁目 営業時間 11:30~15:00(月・火以外) 不定休 Tel.(011)707-1795



19

Feeling like a small trip



お地蔵様と運試し。

麻生には、まちの安心・安全と行き交う人々の幸せを見守るお地蔵様がいます。名前は「麻生 けっぱれ地蔵」。地元の人たちに可愛がられ、頭巾や前掛けも手づくりだ。ただこのお地蔵様、いつでも会えるかわからないという、まさに神出鬼没。なので出会ったら幸運、強運、ツイテるといことになる。麻生のまちでいざ、運試しを。

麻生商店街 振興組合 事務局長 奈良 正彦さん



18

Feeling like a small trip



麻生商店街 マスコットキャラクター あさぶー



活気に誘われる、麻生商店街へ。Shopping Street

麻生の五差路

開口一番、元気が良い、活気がある商店街だと麻生商店街振興組合の奈良事務局長。商店街、町内会、まちづくりセンターのつながりの強さ、地域住民たちの自発的な動きや積極的な交流が面白いと、自身が他の区からの転入組だからこそ一層そのパワーを感じている。戦前に亜麻工場があったことから、みんなで亜麻を育ててものづくりをするといったように、受け継がれる歴史があるところも魅力的な地域だと言う。麻生を象徴する五差路の両側に並ぶ商店街。始まりは140年近く前とされる五差路は、交通の要所としてだけではなく、

地域に根付く拠り所としても歴史を重ねてきた。それは、1981年から地域情報を発信し続ける「ミニマニエー誌『5叉路』」の存在にも見て取れる。商店街振興組合は1973年に発足し、もう50年になる。奈良事務局長は、麻生は若い層が多く暮らす新琴似や、バスターミナルからは屯田、石狩まで多くの人の流れの核となるまち。時代や社会環境を見据えながら、組合のメンバーや地域住民、サポートしてくれている各企業の皆さんの想いをかたちに、これからも活気がある楽しいまちづくりの活動を広げていければと話した。

